

平成 2 9 年

オリンピック・パラリンピック
推進特別委員会会議録

と き 平成 2 9 年 9 月 2 8 日

品 川 区 議 会

平成29年 オリンピック・パラリンピック推進特別委員会

日 時 平成29年 9月28日（木） 午前10時00分～午後 3時30分
場 所 品川区議会 議会棟 6階 第1委員会室

出席委員	委員長	木村 けんご 君	副委員長	鈴木 真澄 君
	委員	伊藤 昌宏 君	委員	本多 健信 君
	委員	石田 秀男 君	委員	たけうち 忍 君
	委員	つる 伸一郎 君	委員	新妻 さえ子 君
	委員	中塚 亮 君	委員	のだて 稔史 君
	委員	いながわ 貴之 君	委員	藤原 正則 君
	委員	吉田 ゆみこ 君		

出席説明員	中山 企画部長	柏原参事（企画調整課長事務取扱）
	安藤文化スポーツ振興部長	鈴木文化観光課長
	池田スポーツ推進課長	小川オリンピック・パラリンピック準備課長
	遠藤協働・国際担当課長	

○午前10時00分開会

○木村委員長

ただいまから、オリンピック・パラリンピック推進特別委員会を開会いたします。

本日は、お手元に配付の審査・調査予定表のとおり、特定事件調査、視察およびその他を予定しております。

なお、本日の特定事件調査の調査項目に関連することから、協働・国際担当課長にご同席をいただいておりますので、あらかじめご了承ください。

また、特定事件調査において、12月を目途に、都に提出を考えております要望書について取り上げます。

あわせて、視察についてですが、受け入れ先の関係で視察時間が午後1時であることから、11時20分を目途に休憩を入れさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

本日も、効率的な委員会運営に、ご協力をよろしくお願いいたします。

なお、本日は、2名の傍聴申請がございますので、ご案内申し上げます。

1 特定事件調査

オリンピック・パラリンピックの推進に関すること

○木村委員長

それでは、予定表1の特定事件調査を議題に供します。

本日は、オリンピック・パラリンピックの推進に関することのうち、ボランティアの確保・育成、気運醸成（にぎわいづくり）、外国人のおもてなしについて、一括して議題といたします。

ボランティアに関しては、2020年東京オリンピック・パラリンピックにおいて、東京都と組織委員会として9万人以上と想定していることが、東京2020大会に向けたボランティア戦略で既に示されております。大会期間中に競技観戦などで東京を訪れる国内外の観光客も増えることが予想される中、当区に来訪する外国人、旅行者などに対して、おもてなしなどを提供するため、本日は都や区の取り組み状況を確認しつつ、3年後に迫った2020年東京オリンピック・パラリンピックまでに、必要となるボランティアを担う人材の育成、確保のあり方や外国人のおもてなしなどの気運醸成の推進に向けた方策などについて、建設的な議論ができればと考えております。

それでは、改めまして、理事者より調査項目について、ご説明願います。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

私から、まず1枚目の資料。東京2020大会に向けたボランティア戦略についてのご説明をいたします。東京2020大会に向けた組織委員会と東京都の動きでございます。こちらの資料は今年の1月25日の本委員会においても提供をさせていただいた同じ資料でございます。こちらは組織委員会のホームページから抜粋した資料でございます。昨年12月に組織委員会と東京都の連盟により東京2020大会に向けたボランティア戦略を策定いたしました。この資料はその概要でございます。戦略と概要については、東京都組織委員会のホームページにアップをさせていただきます。

まず資料の大きな1番、東京2020大会のボランティアの(2)でございますが、ただいま委員長からお話もありましたとおり、ボランティア9万人以上が活躍ということで、まず大会ボランティアですが、こちらは組織委員会が担当しているもので、大会ボランティアは大会関係施設、会場内を携わるボランティアでございます。続きまして都市ボランティアは東京都が担当をするものでございます。空港や主

要駅、主要観光地等で案内等を行うボランティアでございます。

大きな2番に移っていただいて、戦略の主な内容でございます。まず(1)で関係自治体等との連携を図るとございます。また(2)、多様な参加者の活動促進ということで、障がい者、児童・生徒、働く世代・子育て世代等も積極的に活用していくということでございます。

(3)の募集でございます。応募条件検討の方向性ということで、平成32年、2020年の4月1日時点で満18歳以上の方。ボランティア研修に参加可能な方。日本国籍を有する方または日本に滞在する資格を有する方が大会ボランティア。日本国籍を有する方または日本に居住する資格を有する方が都市ボランティアでございます。また、大会ボランティアは活動が10日以上できる方、都市ボランティアは活動が5日以上できる方でございます。その他、情熱をもって最後まで役割を全うできる方。お互いを思いやる心を持ちチームとして活動したい方等がございます。

大きな3番でスケジュールに移ります。平成30年、2018年の夏ごろ募集開始ということでございます。

以上が東京2020大会に向けた現状の組織委員会と東京都のボランティアにかかわる動きでございます。

続きまして、東京2020大会の気運醸成の一環で実施をしております区のボランティアにかかわる事業について、ご説明をいたします。次のページの資料をご覧ください。「しながわサポーター」についてでございます。まず「しながわサポーター」でございます資料にありますとおり、目的は東京2020大会が開催されることに伴いまして、区が主催をする大会開催周知事業等スポーツイベントにおいて協力が可能な企業・団体を募集をいたしまして、応募団体を「しながわサポーター」として決定し、各イベントごとに協力を募るというものでございます。

資料の2番、編成数でございますが、現在16団体です。9月20日現在で16団体でございます。募集開始は昨年7月から開始をしております。16団体の主な内訳でございますが、任意団体が7団体。一般社団法人が4団体。株式会社が5団体ということになってございます。

活動例といたしまして、先日実施をいたしました「1000日前フェスタ」での実績が一番多くの団体にご参加をいただいたものでしたので、こちらを挙げさせていただきます。1000日前フェスタでのボランティア派遣は5団体39人の方がボランティアとして派遣をしていただきました。主な活動内容は、会場の案内ですとかクイズラリーの対応、体験コーナー等の補助をしていただいたというものでございます。また、その他「しながわサポーター」の皆さんにはブースの出展をしていただいたのが7団体、物品等の提供をしていただいたのが3団体でございます。ブース出展の内容といたしましては、ゲームや体験、フェイスペイント、年金相談等をしていただきました。物品等の提供につきましては、子ども用の用品等を提供していただいたというものでございます。

別添のカラー刷りのチラシとホームページを使い、公募を現在もしているところでございます。区のCSR協議会等についても積極的にPRをしているところでございます。チラシの「申請方法など」のところに対象とありますが、こちらの団体を対象としており、申請をいただいて、通知書をお送りし、「しながわサポーター」と決定させていただくという流れでございます。また、ご協力をいただいた内容につきましては、区のホームページでご紹介をさせていただいております。

以上が「しながわサポーター」についてのご説明でございます。

あと、2つの区の事業につきましては、協働・国際担当課長より、ご説明いたします。

○遠藤協働・国際担当課長

私からは「英語少し通じます商店街」プロジェクトおよび外国人おもてなし語学ボランティア講座の各事業について、ご説明いたします。A3の1枚おめくりいただいたのがございますので、そちらに沿ってご説明させていただきます。

まず左でございます。「英語少し通じます商店街」プロジェクトでございます。まず目的ですが、東京2020オリンピック・パラリンピック開催に向けまして、品川区を訪れる外国人の増加が見込まれる中、商店街の店主が簡単な英語、少しの英語を使っておもてなしの気持ちを込めて外国人観光客を積極的に受け入れる雰囲気を地域全体でつくり上げるというものを目的に実施しているものでございます。

事業開始は平成26年度からです。具体的な事業内容につきましては、外国人英会話講師が観光客役に扮しまして、実際に店舗を訪れまして、英語で質問や買い物を行います。店員は基本となる台本がございますので、それをもとに簡単な英語を用いて、観光客役である英会話講師に説明等をしていきます。また、やりとりの中で会話が詰まってしまったような場合につきましては、日本人講師が控えておりますので、その者がサポートして、最終的にはお見送りまでの一連の接客を行うものでございます。

費用につきましては、平成28年度の決算額で62,800円。今年度の予算額は83,000円になっておりまして、こちらは事業の実施委託になっております。

実績といたしましては、平成26年度以降で7回です。参加店舗数は53店舗で実施したものでございます。

次に右側に移りまして、こちら外国人おもてなし語学ボランティア講座について、説明させていただきます。まず目的でございますが、こちらもさっきの「英語少し通じます商店街」プロジェクトと共通する部分が多くなりますが、区民の国際力向上と外国人に対して日本への理解を深めてもらう一環としまして、おもてなしマインドの育成と町なかで日常的にボランティアとして活動するというもので実施をしているものでございます。なお、こちらの事業につきましては、東京都と共催という形で実施させていただいております。

事業開始は平成27年度からです。具体的な事業内容ですが、外国人とのコミュニケーションの基礎知識をグループワーク、ビデオなどを用いまして、おもてなしや異文化を学ぶような形になりまして、こちらがおもてなしコースと呼ばれるものになりまして、それに加えまして、英語があまり得意でない方を対象に簡単な英語表現等を学ぶ約8時間の語学講座が加わったセットコースという2つのものがございます。

どちらも講座終了後には、登録証とバッジが支給されまして、東京都で、外国人おもてなし語学ボランティアとして登録されることとなります。講座終了後におきましては、普段の生活の中で困っている外国人を見かけた際に簡単な外国語で積極的に声をおかけいただきまして、道案内等の手助けをしていただくという形になります。

なお、こちら、いわゆる通常のボランティアと異なりまして、この後具体的な日時や活動場所を指定して実施するというものではございません。また、米印のところに記載させていただいていますが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の期間中に活動するボランティアと異なるもので、こちらに参加されたい場合には、改めて申し込みするというものになっております。

次に費用ですが、平成28年度決算額、35,260円、今年度予算額は41,000円で、こちら申込書の通知の役務費となっております。講座開催に関する費用は東京都が負担しているものでございます。

最後に実績でございます。9月3日現在になりますが、おもてなしコースが7回。語学講座のついた

セットコースが2回実施しておりまして、全部で463名の方が受講していただいております。

○木村委員長

説明終わりました。なお、ご質疑におかれましては、本日の調査項目に関するものからお願いをいたします。それでは、ただいまのご説明に関しまして、ご質疑等がございましたら、ご意見お願いいたします。

○いながわ委員

何回も聞いているのですけれども、改めて組織委員会の大会ボランティアと都の都市ボランティアについて品川区のかかわり方っていうのを改めてお伺いをしたいと思います。私としては、やはり品川区のことをよく知っているのは品川区民だと思いますし、その中でボランティアが出ていって品川のいいところを発信するというのが大切だと思っていますので、どういう位置づけで、例えばボランティアが来たときのユニフォームというのですか。それを今後また、品川だけではなく公募をしてつくるものなのか、どうなのか。だからどうかかわり方をしていくのかというのを1点お伺いします。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

大会ボランティアにつきましては、組織委員会。都市ボランティアにつきましては、東京都がそれぞれ募集をするという役割分担になっておりまして、現在のところ、例えば区市町村を通して募集をするというようなことは聞いてございません。直接国民に対して、あるいは全体的に募集をかけていくということを聞いてございます。

ただ、地元自治体として、いろいろな関わり方がございます。また、23区共通にいろいろ関わり方がございますので、現在特別区の課長会のほうでも、東京都と連携をして、ボランティアについてのPTも立ち上がったところでございます。ただそれが直接大会ボランティアと都市ボランティアにどうかかわるかというのはまだ未定で、青写真も示されていないところですので、区は区として、気運醸成に向けて取り組んでいこうと考えているところでございます。

また、ユニフォームにつきましては、今区のほうでつくりました「わ」のポロシャツを使い、できるだけ区のイベントについては「しながわサポーター」にもポロシャツを着用していただいで、一緒に盛り上がっていきこうということでやっているとありますが、当然大会ボランティアや組織委員会が編成された折には、独自にユニフォームをつくるということは聞いておりますし、またユニフォームの装飾等についても競技会場を有する自治体と連携したいというようなことは戦略プランにも載っております。ただ、具体的にどのようにコラボしていくかというようなことが、まだ見えていない状況でございます。

○いながわ委員

ありがとうございます。大会ボランティア、都市ボランティアというのは、この東京2020大会に参画をしているというイメージになると思うのです。オリンピックのパスですか。リオに行ったときも首からパスをかけていて、オリンピックを盛り上げる、要はユニフォームを着ていたわけであって、本当にオリンピック手伝ったんだという思い出なのか、経験なのか、体験なのかは別にしても、もし品川区のボランティアが着たときには、おそらく、言い方恐縮ですけども、語弊があるかもしれませんが、蚊帳の外と言うのでしょうか。あれは向こうでやっているけれども、品川の場合全然違う感じで動いているのだよという感覚にならないような形にさせていただきたいのです。やはり品川区で募集したボランティアもオリンピックに参画をしているという、そういう仕組みをぜひつくっていただきたいなという思いがあります。

品川区にも会場があります。会場の周りは多分大会ボランティアと都市ボランティアがいろいろ道を案内したりするのですが、おそらくそこでアトラクションを何かやりましようと言ったときには、区のボランティアにやってもらうとか、いろいろな形で、外周りというよりはむしろ、品川区もいち早く招致をいろいろやってきたわけですから、やはりボランティアにも本当にオリンピックに参画ができる、したということにより満足度が上がる。ぜひ組織委員会、東京都に呼びかけをして、連携をとっていただきたいと思います。

あと、これは協働・国際になってしまうかもしれないのですが、少し通じます商店街で、53店舗の方がこれの研修を受けたということなのですが、この商店街の数を教えていただきたいということと、外国人のおもてなし語学ボランティア講座の実績として463名の方がこれを終了したということと、結構な数なのです。これを今後オリンピックのみならず、おそらくその後のいろいろなボランティアでお手伝いをいただくような形になると思うのですが、そういうのをどういう想定をされているのか。もちろんオリンピック・パラリンピック準備課との連携も必要であろうかと思しますので、その辺をどう課として考えているか、教えてください。

○遠藤協働・国際担当課長

まず、商店街の数ということでございますが、12の商店街にやっていただきました。それと、おもてなしボランティア講座に受講された方たちが、どういう形で品川区おつき合いいただくかという部分かと思っておりますけれども、東京都のほうでもアンケートをとるのでございますけれども、その他に品川区のほうでも同時に別のアンケートをご用意いたしまして、今後区で国際関係のものがあつた場合には参画していただけますかというようなことを書いていただくような部分がありまして、ちょうど先週、この前の日曜日に「宿場まつり」があつたかと思うのですが、そこで少しボランティアの方向人かに声をかけまして、実際に活動をやっていただきまして、結果がその方たちからのアンケートというか、どんなことがありましたかというのはなかなかまだ、メールでやりとりしているので集まっていないのですが、そのような形で徐々にその方たちで、さらに区の国際イベントなどでボランティアやってくれる方をどのようにやっていければなというところで、いろいろ検証等をさせていただいているところでございます。

今後は、さらに広げまして、観光協会などとも連携して、うまくそういうことをできればなというふうに、今進んでいるところでございます。

○いながわ委員

ありがとうございます。

商店街、12商店街とは、おそらく外国人の方がいらっしゃるといのは、雑誌とか町歩きの本に出ているところに行くので、おそらくどこかに偏る感じになると思うのです。あまり個名の商店街は上げられないですけれども、品川区で有名な商店街とかになってくると思しますので、そこはそこで全く外国人がいらっしゃらないところをやる、必要性がないとは否定できないところなのですけれども、そこは効率的にしっかりと機能するような感じで、あそこの商店に行けば英語わかるから連れていこうと、そういう連携もしっかりとれるような感じで事業を進めていってほしいです。

あと、語学ボランティアの講座なのでございますけれども、ここでせつかく品川区が9月3日現在で463名ですか。このまま大会ボランティアとか組織ボランティアのほうにこの人たちが流れてしまうのではないかなというのは非常に危惧、否定はできない部分だと思うので、品川区がせつかく育てた語学ボランティアが、品川区で学んだから。おそらくまた語学ボランティアとか、大会ボランティアになってくる

と、そこはそこで研修をやると思うのです。そうするとこの人たちがさらに磨きをかけて、上のほうのボランティアというのですか。この大会ボランティアと都市ボランティアで活躍されてしまうのではないかなという危惧はされるのですが、その辺をどう思っているのか。

だからこそ、いろいろな部分で連携をして、このボランティアは品川が育成したボランティアですよではないですけども、やはりこれも言い方おかしいですが、各行政の見えの張り合いになってくるのではないかなと思うのです。終わった後に品川区よかったよと。やはりこれ実績を残していくべきだと思うのです。それをしっかりやっていただきたいのですが、その辺どうお考えなのかを教えてください。

○遠藤協働・国際担当課長

ご質問ありがとうございます。

商店街の件につきましては、一応今12商店街、全て重なってやっているというところはなく、純粋に順にやらせていただいています。今後もいろいろと商店街連合会とかを通じまして、引き続き気運醸成に努めさせていただければと思っております。

語学ボランティアを品川区でやったというような部分でございますが、語学ボランティアで、その中で語学はできるけれども、ではどのような形のボランティアができるかといいますか、語学だけでできれば大丈夫だよという部分でもないかと思っておりますので、その辺どういう形で、ボランティアの方に活躍していただければいいかというところで、それぞれのボランティアのランクといいますか。やるものによって、いろいろと差が出てくるかと思っておりますので、ぜひともこちらのほうでいろいろとメニューなど考えまして、ぜひ品川区でボランティアの方が、大会ボランティアとか組織ボランティアとは違うような形でうまく参画できるような形でできればなというふうには思っております。

○いながわ委員

最後に、ご答弁ありがとうございます。

そうやってこのボランティアの皆様をハンドリングするというのは大切なことであって、であるのであれば、しっかりオリンピック・パラリンピックの課と連携をとって、いろいろな方がいらっしやると思うのです。でもいろいろな方もおそらく英語ができれば大会ボランティアで道の案内というのは、おそらくできるのです。普通に道の案内をすればいいだけですから。だからそういうのを考えると、しっかりそういうのを考えると、要は英語ができるのだったら、品川区より大会ボランティア行ってしまったほうがいいよねと。自由に出入りできるしみたい。そういう感覚には絶対なると思うのです。やはりリオ行ったときも、一番期待されるのは東京オリンピックだと言っていたわけですから。そのボランティアの皆様が。向こうはあまりよろしい環境ではなかったようなのです。だからそれを、すごく期待感の中でみんな来るので、その辺をしっかりハンドリングできるように連携してやっていただきたいと思えます。

○木村委員長

ほかに何かありますか。

○石田（秀）委員

すみません。今いながわ委員が最後に言った部分のところ、大会ボランティアで、改めて私も教えていただきたいのですけれども、外国人のボランティア。これは組織委員会でやって、日本に滞在する資格を有する方ということになると思うのですが、リオに行かれて、今まさにお話が合ったように、これ僕が張っている範囲の中だと、リオはいろいろな形で治安等いろいろあったと。だけれども、やはり東京だったら世界各国から10倍ぐらいのボランティアの人が東京オリンピックには来るだろうという

お話があったということなのだけれども、現実問題として、どれぐらいの方が例えばリオに外国人の方。そういう外国から来られるボランティアの方。皆さん自費で宿泊費用から何から払って4年間お金をためて来られるというようなお話もうかがったけれども、そうするとそういう方がどれぐらいいて、10倍来るとしたら、どれぐらいいらっしゃるのか。

お話をうかがうと、多分そういう方々はもう事前にももちろん大会ボランティアとして登録をして、資格を持つのだけれども、宿泊先とかも自分たちでお決めにならなくてはならないとなると、結構距離があるところから通ってくるのかそういう話もうかがったのだが、私の知識で合っているか。最終的に今の話で。だけれども、人数的なものもおわかりだったら教えていただきたい。この何点かお伺いしたけれども、まずそれを教えてください。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

まず、リオ大会でのボランティアの数は5万人と言われておりまして、国籍の詳しい資料等は出てはおりませんが、リオを視察に行ったときのヒアリングの数字でございますけれども、ブラジル人は約80%というふうに聞いております。20%は外国人で、アメリカ、イギリス、ロシア、中国、アルゼンチン等の各国から来ていたというふうにかがいました。

あと、宿泊につきましては、このボランティアの戦略にも出ておりますが、宿泊場所の確保に当たっては自己手配をお願いすることになるというふうに、はっきりと書かれておりますが、宿泊に関する情報提供について検討をするというふうに書かれてございます。

○石田（秀）委員

この数字が合っているのかどうか、ヒアリングの段階で結構なので、5万人いらっしゃって20%が外国人の方だとしたら1万人いらっしゃる。東京を目指していて、東京は治安もいいし、目指して10倍ぐらいの人が来るのではないですかと言ったら、そこでもう10万人になってしまうわけではないですか。9万人以上活躍してほしいという、外国人の方で全部埋まってしまうみたいな話になってしまうのかなと思ったのだけれども、そこまで本当に東京オリンピックを目指して、各外国人の方々がそういう形で来ていただけるというのは、私は非常に嬉しいことだと思っています。

そうなったときに、ではその方々を自己手配で宿泊先を探していただくのが大前提ということであるならば、私はそういう人こそ品川に誘致をしていく。それは例えば仮設でもいいわけです。それは敷地の中で、例えば学校もあったり、そういうところを改築したり、それはもちろんいろいろなことがプロポーザル提案をしてもらって敷地があって、こういうものを建てて、そこはオリンピックのときに事前から営業してもらっていいわけだから。期間はこれぐらい。その中でその方々が、これは企業の人たちもそこで合えば、それはそれで商業ベースとして、そういう仮設だのが何だろうが提案をして、こういう敷地を用意するよということをしていくことによって、品川がそういうおもてなしをすることによって、もちろん地域の方々との交流。そういうことも含めて、そういうメニューづくりをしていって、品川と一緒にオリンピックを外国人のボランティアの方々と、単純に言うボランティアセンターとはまた違って、そういう宿泊を伴った、一緒になってまちを盛り上げるみたいな、そういうことを検討していくべきだと非常に思っていて、そういうことを仕掛けていくならもう3年しかないから、そういう提案を受けて、今からこういう事業もどうぞ。それはいろいろ各近隣のホテルの方々との話もあるわけです。営業妨害のような話になってもしょうがないわけだから。

だけれども、そんなに遠いところから通ってこられて、ボランティアをやっていただくなら、その今言ったリオなら1万人かもしれない。だけれどもそれが10倍来て10万になるかどうかは、それは

わからないけれども、そういう方々の千人でも2千人でもそういう施設をつくって、考え方として、品川で一緒になってオリンピックを盛り上げていきましょう。その中で地域の文化、そういう交流も一緒に区民の方々とやっていけるような部分というのは、今考えないともう間に合わないと思っていて、そういう部分のお考えというのがあるのかなというところだけ聞きたい。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

まさにリオに視察に行きまして、ボランティアさんといろいろお話をさせていただいた中で、やはり宿泊施設については大きな課題だということは聞いてございます。視察の報告書にも、宿泊については、必要だと。場合によっては区内で何とか。どういった形になるか。区の施設を使うのか。あるいはいろいろな手法があると思うのですが、そういったことで、例えばホームステイ等というようなものを報告書には書かせていただいたところで、区としても十分認識しておりますので、今後とも検討してまいりたいと考えてございます。

○石田（秀）委員

改めて要望だけしておきます。区内の今ある宿泊施設は、それこそオリンピック関係者なり、もちろん観光客なり、いろいろな形で多分もう優先的にそちらのほうが非常にお金も取れるわけだし、そちらを優先するのは営業的にも当たり前のことだと思っております。その中で、今言ったボランティアという方々に注目をして、区が一緒になってそこを先ほど言ったものも考えるのであれば、私はもう来年度それを準備して、区がこういうところがあって、こういう提案をしてください。プロポーザルでこういうことをしてもらおうというのは、今検討されているのだったら、私は来年既にそういう部分の行動は起こすべきだと思っているので、ここでとめますので、それはぜひよろしく申し上げます。

○木村委員長

ほかにございますか。

○中塚委員

今、お二人のやりとりもうかがっていて、あと3年に迫っている中で、スポーツの協議を直接する地元自治体であるこの品川区が取り組むボランティアが率直に言ってまだスキームがはっきりしていないというのを聞いて、驚いたというかもっとしっかりちゃんとやっていかなくてはいけないというのか、大会組織委員会との関係がありながらも、このペースでは少し心配が残るなというのが、率直なところでは。

お伺いしたいのは、やはりこの品川区が募集し、登録し、取り組むボランティアは、東京オリンピックに参加をしているのだということをはっきりさせる。ここが必要だと思うのです。大会ボランティアも都市ボランティアもそれぞれありますけれども、住民は一生に1回、中には2回目の方もいらっしゃいますが、この大会にボランティアという形で私も参加したと。この思いにぜひ応える形にさせていただきたいと思うのですが、先ほどからの話だと、まだ未定だったり具体的でなかったり、気運醸成ということはやっておりますけれども、品川区のボランティアはオリンピックに参加をしているというそういう仕組みです。そこをしっかりと構築していただきたいと思うのですが、いかがかというのが1つです。

もう一つは、現状行っている「しながわサポーター」や、「英語少し話せます商店街」プロジェクトや、外国人おもてなし語学ボランティア講座についてです。これらは最終的には品川区が取り組むボランティアにつなげていきたいということが念頭にあって取り組まれているのか。まだスキームがはっきりしないからそこは示せないのか。そこについてもお伺いしたいと思います。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

現在区のイベント等に「しながわサポーター」などはご協力をいただいております。そのイベントにつきましては、品川区が実施するオリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成のイベントであるということははっきり打ち出した上でご協力をいただいているところでございます。ご協力をいただいているサポーターの皆さんもそういった意味で東京2020大会に向けた何らかのかかわりをしているのだという気運を持っていただきつつ参加をしていただいているという状況でございます。

また、今ご紹介いたしました区のボランティアにつきましては、サポーターにつきましても、商店街ですとかおもてなしボランティアにつきましても、これは区の事業でございます。区のほうで募集をしたりあるいは要請をしたりしてございますので、これは当然区のほうで今後いろいろなイベント等に活躍していただきたいと思っておりますのでございます。

○中塚委員

気運醸成としてオリンピックにつなげていきたいというのはよくわかるのですけれども、これは最終的に品川区が取り組むこのボランティアの登録につなげていって、品川区民もこのオリンピック・パラリンピックの成功にしっかり参加をする。その仕組みをしっかりと示していくことが、あと3年ですから、今から示していくことが必要だと思うのですけれども、その辺についても改めて伺いたいと思います。

具体的には、この品川区のボランティアについてですけれども、英語をはじめとした、さまざまな外国語が得意な方の区民の力を集めることが大事だと思いますし、そのためには品川区内の高校、大学、専門学校、地域にある英語のサークル、シルバー大学、例えば学生の方も社会人の方も、あと仕事は引退したけれども、語学にたけている方も地域にはいらっしゃいますので、そういう方など、さまざまな関係団体と今から連携して、大会の成功につなげていくということが必要だと思うのですけれども、この点も伺いたいと思います。

また、あわせてパラリンピックのことも踏まえて、この高齢者施設や介護施設や福祉施設の職員の方々、民生委員や社会福祉協議会で既にさまざまボランティアされている方々に例えば休憩スペースをつくったり、障害がある方の支援を行ったり、大井町にある戸越銀座商店街や町歩き1つとっても、さまざまな役割を発揮させることができると思うのです。

こうした区と関係の強い法人や団体や組織との連携というの、あわせて必要だと思いますけれども、いかがでしょうか。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

区の現在行っております事業につきましては、あくまでも区のイベント等にご協力いただくということでございます。先ほどから申し上げておりますとおり、大会ボランティア、都市ボランティアというのは、それぞれ東京都、組織委員会が募集するものでございまして、区のほうでオリンピック・パラリンピックの大会に直接かかわるようなボランティアは募集できないのです。

「しながわサポーター」のチラシを見ていただければわかると思うのですけれども、こちらのチラシでも本来でしたら、東京オリンピック・パラリンピックのことを入れたいところではございますが、こちらについても組織委員会からの厳しい検閲が入りまして、区の主催スポーツイベントにというようなところまでしか表現ができないということで、区としては苦渋の選択でございます。とはいえ、区としては気運醸成にすごく力を入れているのだという気運を見せて、このような事業に取り組んでいるということでございます。

また、大学、学校との連携につきましても、既に始まっておりまして、例えば先日の1000日前フェスタとか、これまでフェスタ関係もう4年目になりますけれども、これまでのフェスタについても、近隣校ですとかいろいろな学校関係にも声をかけて、既にいろいろご協力をいただき、活動もできていて、それなりの構築はできているところでございます。そういった学校につきましても、あくまでも区の2020年に向けた気運醸成の取り組みのイベントにご協力をしてくださいということで、ご理解をいただいて、協力をしていただいているところでございます。

また、先日ふくしまつりと合同で1000日前フェスタを設けさせていただいて、そういった意味で福祉との関係もパラリンピックを見据えた形で、もう既にできているところでございますので、区といましては、体制としてそういった意味でいろいろな方面で着々と連携は進めているところでございます。

○中塚委員

大会には直接かかわることができないと東京都からの指示というか、チェックがあるということ。ここはよく調整していただきたいと思うのですが、そうはいつでも、品川区には競技場もありますし、また宿泊施設もありますし、大井町や武蔵小山や大崎や五反田や目黒や戸越公園や戸越銀座商店街や、さまざまなところに世界中からオリンピックを楽しみに、また日本の文化や観光を楽しみにするわけですから、あと3年というところで、品川区としてのボランティアの取り組みとして募集や周知をしっかりと構築していく必要があると思います。

その際に、具体的にどんなことをボランティアがするのか、よくイメージが持てるようにしていくことが大事だと思うのです。例えば町歩きガイドだったり、飲食店や観光スポットへのガイドだったり、例えば日本に来たからせっかくだから銭湯に入りたいとか、そういうこともあるかと思うのです。日常的にも、例えばヨーロッパから親戚が遊びに来たときに、何か日本のようなものが見たいというお話になって、鹿島神宮に行ったり大仏に行ったり、そういうことはあるわけですが、何かガイドだったり「近くの銭湯はどこですか」とか、例えば「大阪に行きたいのですが新幹線はどうやって乗ったらいいのですか」とか、そういったことがたくさん日常的に行われると思うのです。そういったときに、一定の研修を受けている、またユニフォームを着ている、バッジをしている、こういう人だったら声をかけても対応できるように準備していますよと、来た方がわかるようなそういう仕組みをつくっていくことがとても大事だと思うのですが、いかがでしょうか。

最後に、やはり大井町、大崎、五反田など主要駅にはたくさんの方が来られると思いますので、品川区として、品川区のボランティアで例えば区民によるボランティアのインフォメーションコーナーみたいなものをつくってはダメなのでしょうか。たぶんお巡りさんのところに、みんな道を聞きに行ってしまうかと思うのですが、そうではなくて、大井町にもホテルはありますし、五反田にもホテルはありますので、区としてウェルカムオリンピックと。何かありましたら学生ボランティア、住民ボランティアですが、ご案内のお助け、お手伝いしますよと。そういう取り組みというのは、完全にダメなのですか。1つご説明ください。

○鈴木文化観光課長

ただいまご質問にありました外国の方が品川区を訪れたときのさまざまなお案内です。これは、委員のお話にもありましたように、オリンピック・パラリンピックに限定をせず、観光で来られた方とかもいらっしやいます。区のほうでも、今、観光に関するところで、語学のボランティア。それから地域の知識を持った方のボランティアというのにも要請をしたり協力いただくというのは既に始まっております

ので、それをオリンピックに向けた組織という形で今組んではおりませんが、区内のどこでもオリンピックのボランティアの方でも旅行の方でも対応できるような区内の状況というのは、整備を進めているというところでございます。

○木村委員長

ほかに何かございますか。

○本多委員

それぞれの委員から2020年を充実するためにいろいろ意見出されて、全く同じ思いですけども、質問はこの組織委員会が出されたボランティア戦略の資料なのですが、2020年の前の年の2019年がラグビーの世界カップ2019があるということで、当然会場は品川区ではないのですが、この大会に向けてボランティアを各自治体との連携とあるのですが、こういったところを2020年を充実させるために品川区が率先して2019年のラグビーに参画をしていく。当然品川区ではないので環境は違いますけれども。ただ、それが一番2020年をスムーズにするためのプレになるのではないかなと思うのですが、その辺積極的に参画するというところは、どういうお考えでしょうか。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

ボランティア戦略でも書かれておりますとおり、東京都組織委員会のほうでも、まずラグビーワールドカップ2019での経験を大会につなげたいという思いがあるようでございます。そうした意味で、まず都市ボランティアの一部につきましては、平成29年度末ごろから前倒しで募集を行いたいというふうにボランティア戦略でも書かれておまして、そうした情報も担当課長会のほうでもやっと先ごろ示されたところで、具体的にはもう少し待ってくれというようなお話がございますので、そういった経緯を見つつ、品川区としても動いていきたいというふうに考えてございます。

○本多委員

ちょうど今年度なので、ちょっと待ってくれということなのかもしれないのですが、率先して参画をして、2020年を迎えていただきたいと思います。当然オリンピック・パラリンピックとラグビーでは規模が違いますけれども、品川区のボランティアをやるという意味では、2020年と2019年、規模は違いますけれども、品川区が担う役割というのは、イメージとしてはどんな感じなのでしょう。同じようなイメージなのか、その辺の臨むに当たってのイメージというか、戦略というか、教えていただければと思うのですが。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

ラグビーワールドカップでは、残念ながら品川区に会場はございませんで、そうした意味でやはり2020年のときは、かなりかわり方が違うのだろうと。また、観戦客の動きも大会のときは違うのだろうというふうに考えてございます。

そうした意味で、区が今後ラグビーワールドカップにどうかかわっていくかということは、今後、東京都や組織委員会の動きを見据えつつ、委員ご指摘のとおり積極的に手を挙げるなどして、2020年に備えて少しでも経験則としてつなげられるように工夫をしてみたいと考えてございます。

○本多委員

すみません。言い方が悪かったのですが、ラグビー大会に携わる品川区の役割など聞いていなくて、2019年のラグビー大会のボランティアと2020年のオリンピック・パラリンピックのボランティアの部分を知っているのです。大会の運営のことは一切聞いていなくて、2019年と2020年では規模が違いますよね。規模は違うけれども、ボランティアをやる内容とか、その辺はまるっきり同

じで考えると、そういうイメージがわからないので、ボランティアに対するイメージを。大会運営については、何も聞いていないのです。ボランティアは同じようなことをやるのかとか。質問の内容は、要するに2020年を充実させるためのプレをやってくれということなのです。なので、そのボランティアに対する2019年と2020年では何か違いがあるのか。それとも全く同じように臨むのか。イメージを教えてくださいたいのです。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

ボランティア戦略に書かれておりますのは、都市ボランティアの一部を募集するでございますので、当然会場周辺の観光客、観戦客へのご案内と、都市ボランティアが編成されて活躍するものだというふうに考えてございます。そうした意味で、品川区は会場がないので品川区のほうでどういうふうにそういったことに携われるのかというようなことで、先ほど私のほうで申し上げたということなのですが、あくまでもまず都市ボランティアを先行して募集してみるということが、今回の東京都と組織委員会の考え方でございますので、そうした意味で、その都市ボランティアについて、都市ボランティアというのは先ほど申し上げましたとおり、会場外での観光スポットでのご案内等にかかわることでございますので、そうしたことで品川区のほうにどういったことで区民の方たちが携われるのかというのは、今後推移を見て考えていきたいと思っております。

○伊藤委員

質疑を聞きながらふと思ったのですが、課長のご説明によると、オリンピック・パラリンピックのボランティアを各自治体が募集することはできないということを確認しました。けれども、全国自治体に会場があるわけであって、そうすると、例えば組織委員会に対して物事を言っていく必要あるのではないのでしょうか。当然地域の特性もあるでしょうし、それから地理的な状況も相当違う。そういうことについて、今の現状が、組織委員会と東京都が一括して処理することになっているわけでしょう。そうすると細かい部分の対応なり、それから非常に地方自治体の、例えばいろいろな道案内も含めて相当混乱が予想されるわけです。

だから、そういうことを考えていくと、例えばこのオリンピックの会場のある自治体については、何か1つの共通の基準を持って募集していきなり、そういうことをしていけないと、非常に運営に支障があるのではないかという気がするのだけれどもいかがでしょうかということをお答えいただきたいのと、できればそういうことで、東京都をはじめとして、複数の区、それから全国の地方自治体等から組織委員会等へ申し入れしていきなり、そういうことをしていくことのほうが私はいいと思うのですがいかがでしょうか。お答えください。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

委員ご指摘のとおり、品川区の実情は品川区民が一番よく知っているわけでございますので、そうした意味で、例えば都市ボランティア、会場周辺の案内員につきましては、少なくとも品川区民がご案内できるのが一番望ましい形であろうかというふうに考えてございます。

そうしたことで、現在組織委員会は担当部長会ですとか担当課長会に必ず出席することになっておりますので、十分区のほうから申し入れする機会はたくさんございますので、今後ともそういった意味できめ細かく対応していきたいと考えてございます。

○伊藤委員

前にいただいた東京2020大会会場一覧を見ると東京都もそうですけれども、例えばさいたま市、それから川崎市、千葉県等、北海道、福島市等々全国に会場がまたがっているわけです。当然地理的な

状況も、それからおそらく会場までのアクセス等も相当違うでしょう。

だから、お願いしたいのはこういう他の地方自治体との連携をしながら、やはりこのことについては共通の課題だと思うのです。だから、より地方に精通した方がこういう方が地域に携わっていったほうがはるかにいいわけですので、改めてそういう全国に働きかけて、対応する気持ちがあるかということと、方向性をお聞かせください。お願いいたします。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

今日ご紹介いたしましたボランティア戦略につきましても、東京都と組織委員会は競技会場を有する自治体をはじめとする関係団体と十分に連携し、大会の成功を日本全体で実現できるよう一体的な取り組みの推進を検討していくというふうにはっきり書かれてございますので、そうした意味で品川区は当然会場も有しますので、はっきりともの申してまいりたいと考えてございます。

○たけうち委員

すみません。確認ですが、このボランティア戦略の中の2番の戦略の主な内容の(2)の多様な参加者の活動促進で、ここのイのところでは児童・生徒とありますが、小学生については体験できる仕組みを検討と。それから中学生・高校生についてはボランティア参加を検討と。大学生も同じような趣旨なのですが、一方で(3)の募集のところでは18歳以上となっているのですが、そうすると小・中学生また高校生もそうですけれども、18歳未満という中で、この方たちは9万人のボランティアに含まれるのか、それとも別枠で何か取り組みを考えるのか。その辺もしわかれば教えてもらいたい。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

大会ボランティア、都市ボランティアの募集要項はこういった年齢でございますので、あくまで別枠だと考えます。やはり、次世代を担う若い世代にボランティア活動を体験してもらいたいという思いが、東京都、組織委員会にもございまして、都内の小学生で親子で参加できるといった例えば都市ボランティアの活動として一緒に体験するですとか、そうしたことや、また各種セレモニーがございまして、そういったものへ出演をしていただくとか、競技運営にサポートしてもらおうとかいうようなことを現在考えているようではございますが、戦略ではここまでしか表現されてございません。

○たけうち委員

わかりました。アの障がい者の方とか、ウの働く世代、子育て世代とはイの児童・生徒はまた少し別なのかもしれませんけれども、ただいずれにしてもしっかり未来を担う若い世代が優先的にある程度ボランティアに参加できて、それを将来の過程に活かしていただきたいという思いがありますので、ぜひそういう要望をもしできる場がありましたら、要望していただきたいと思います。

○木村委員長

ほかに何かございますか。

○つる委員

先ほど本多委員もおっしゃっていましたが、それぞれの質疑で本当に東京2020大会に向けて一生懸命やっていくという方向性が見えた質疑だなと思ひ、また特に宿泊関係なども、本当にまさにそのとおりだなと思ひました。また、リオの視察の報告書にも明記されているそうですが、ホームステイについても、これは非常にいい取り組みなのかもしれません。先ほどあった、想定ですが10万という中で、そのうち何人が品川区の中で行われる競技ないしまたその宿泊先だとか滞在先だとか、観光先に来られるかどうかというのは、それはまたわかりませんが、当然ボランティア以外のオーディエンスとか観客の方も来るわけですから、そういう方の対応というところでは、やはり早急な手だてが

必要ですし、特にホームステイなども直前でやってもどう対応していいかわからないということもあると思うのです。

私もかつて、何回かホームステイ受け入れたことありますけれども、やはり慣れていないとなかなか困難な部分が当然あるのだろうなと思って、先ほども質疑でありましたけれども、これは積極的に早く品川区としてもできることを検討していく必要があるのだなと質疑を聞いて非常に思いました。

あとは、感覚的なことになってしまうのですが、今日特にまたボランティアの部分なのであれなのですが、先ほど品川区独自のサポーターの話もありましたけれども、このボランティア戦略の中の大きい2の(6)の大会後のレガシーについてです。これいろいろところでレガシーレガシーと言われて、ハード・ソフト両面あるのですが、今現在品川区として、オリンピックの委員会も4年目です。確か4期目ですか。私もずっと委員として所属をしているのですが、区のそうした取り組みの中で、当然3年後が1つのターニングポイントなのですが、それはあくまでも通過点です。よく言われることですが通過点の中で、1964年のときもそうだったと思うのですが、今やっていることがまさにそういうレガシーになるのだっていう確信だとか、手応えというようなものを、区としては、今現在、具体的に取り組み始めて4年の中で、サポーターとかこういうことやっているよというそういう具体的な事業のことではなくて、やはり人材とか、本当にまさにレガシーとして今実感としてあるのかという、その部分を教えてください。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

品川区では、特に会場はなくなってしまいましたが、今現在ブライドサッカーを応援しているところでございます。そうした意味で、ブラインドサッカーの関係の事業をたくさんさせていただく中で、いわゆる品川区の障害者スポーツという部分で、大会が終わった後も、そういった意味で区民の方たちにそういった意識が浸透し、パラリンピックが終わった後も根強く障害者理解へもつながるというところで、障害者スポーツの振興がさらに発展するというところで、今現在はそういった手応えは感じているところでございます。

○つる委員

何か1つに限定とかそういったことの必要性というのではないと思うのですが、やはりその上で区としては、これを1つの大きなレガシーにしていくぞというそういう目標なり指標なりということも1つ必要で、今お答えいただいたようなブラインドサッカーを通じた品川区の障害者スポーツ。まさに一生涯の生涯で生涯かけて障害のある方も、また健常の方もスポーツに携わっていくというそういった仕組みづくりというのも、品川区としては、オリンピックを活かして活用するという視点も、一方で必要なわけです。競技開催都市であるという観点では、オリンピックを成功させるということは、共通の部分なのですが、その上でそれを活用して、品川区として国にどう還元していくかというのがまさに大事な視点で、そういった部分の見方の感触というところで今先ほど伺ったわけですが、そういった部分で先ほど質疑もありましたけれども、品川区で一生懸命、私もオリンピックに何らかの形で38万の区民の方が1人も残らず参画したのだということが、1つの本当にまさに心の中のレガシーに残るような取り組みをとっていることを言っているの、なかなか規制があつて、オリンピックのマークだとかフレーズだとか使えなくても、こういうサポーターとかという形で一生懸命やっているのですが、だから本体のほうでやっているオリンピックに違う形でさお差して、何か一生懸命やっているけれども、頑張ってお迎えしようと思ってやったけれども、開店休業みたいな形で結局誰も来なかったねというのも、それはそれで寂しさが残る部分があるかと思うのです。

なので、この戦略の主な内容の(1)の中でも、関係自治体等の連携の中では、あのところでは競技会場を有する自治体との連携という中にも、これ具体的な部分は先ほどなかったですが、研修を一部共有化とかありましたよね。具体的な内容はわかりませんが、そういった形で先ほども質疑ありましたが、やはりより品川区の方が本当にオリンピックにまさにかかわったのだという。その部分を毎回申し上げていますが、ボランティアという観点を通じて、またボランティアだけなら先ほどちらっと申し上げましたが、品川区民の方も当然観客、オーディエンスとなるわけですよね。オーディエンスなければ、大会は盛り上がりませんから、そういう視点も含めた全体の気運醸成だとかということを今後検討していただきたいと思います。これは要望です。

そして、最後に研修を一部共有化のこの具体的な部分で何か知っていることがあれば、最後教えていただければと思います。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

研修の部分につきましては、大会ボランティア、都市ボランティアそれぞれの研修等がございます、そうした部分でやっていくということで、大会ボランティア、組織ボランティアがそれぞれ研修を行うということでございます。それが共通的な研修を実施とこちらに書かれているものでございますが、研修につきましては、まだこれからいろいろ国や関係機関と連携をとりながら検討していくというふうに書かれています。

○つる委員

要は、協議開催会場の自治体としてやるわけですよね。だからさっきいながわ委員もあつたけれども、こういう品川区で一生懸命つくり上げた別物なのだけれども、何か連携させる仕組みというのが今後可能性としてあるということですか。そういう細かい内容は当然これからなのだけれども、そういう可能性があるかということですか。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

失礼いたしました。競技会場を有する自治体との連携という部分につきましては、例えば都市ボランティアのユニフォームや活動拠点の装飾等について、統一的なデザインを採用するですか、接遇や大会情報などの研修の一部を共有化するなどが書かれています。

いずれにしても、ボランティアによる案内の質的向上を目指していくというような指摘がございますので、そうした情報を区としては率先して捉えていきたいと思います。

○木村委員長

ほかにございました。

○石田（秀）委員

1点だけいいですか。ここの趣旨とずれてしまうのだけれども、質疑を聞いていて、ぜひこういうものがあるなら、議会にも出していただきたいと思ったのは、もちろんIOCがあつて公式スポンサーもあつて、規制があつて、こういうものは使えますよ、使えませんよ。そういうのは、現実に出くわして、我々もそういう方々に聞くと、例えばライブで放送を流すと、例えば聖火ランナーなどはライブでもしそれを聖火ランナーのずっとそういう国民とか一般市民の方々も含めて流すと、公式スポンサーの手前、コカ・コーラ以外の自動販売機は全部隠すとか、それは隠さなくてはならないと。そのことをやるだけでも非常に大変なのだから、例えばこの前も水辺の話であつたけれども、オリンピック映像をプロジェクションマッピングで流そうという話で流そうとしたら、必ずそこには誰が流したか入れてくださいと。ではパナソニックと入れてくれ。それならいいですよ。それは公式スポンサーだ

から。

だけれども、そしたら今度屋外広告物条例でそういうスポンサー名が入った映像を流すことはやめてくれとこう来るわけで。それぐらい厳しいのはいいのだけれども、そういう場面に出くわさないと、さっきのこういうチラシでもそうだが、議論を聞いているとそういう話が必ず出てしまうではないか。こういうことは使えませんとか、こういうものはI O C、それらスポンサー関係で無理ですとか、こういうときならチャンスがありますとか、そういう何か書類というのが、これだけやっていると大分あるのだらうと思うのだけれども、そういうものを1回教えてもらうというような機会というか、そういうものが出せるものがあるのか。最後にそれだけお聞きしたい。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

当然組織委員会から示されておりますそういったガイドラインというものは、各自自治体にもう既に送られてございますので、そういった資料につきましては許す限りご提供していきたいと考えてございます。

○木村委員長

ほかにございますか。

○いながわ委員

ボランティアの戦略のみならず、ここのスケジュールのところは平成30年夏ごろ募集開始と書いてあり、もう来年度になってくると思うのですけれども、ボランティアはボランティアでボランティア間でいろいろ情報交換をして、多分組織委員会の中でもボランティアと通じている人たちがいるので、どんどん多分ボランティアに対しては情報が出ていると思うのです。だから、平成30年という前にもうおそらく何とはなく話が伝わっていて、いろいろな動きが、多分大会ボランティアとしては、もうほぼこういう状況でやるからというような情報は流れているような気がするのです。

これはボランティアだけではなくて、2年前にこういう動きがあるということは、ホスピタリティハウスしかり、先ほど言ったボランティアの施設ですか。宿泊施設を品川区で誘致しようというのもしかり、おそらくもう来年度が1つのターニングポイントで、おそらく他の国々もホスピタリティハウスかブリティッシュハウスでしたか。あそこも1年半前に美術館をもう押さえていたというぐらいですから、もう東京都の情報を待っていて、ではどうしようという、多分全部後手後手に回っていくのではないかなという思いがあるので、これはボランティアの戦略について少し外れるのですが、来年度から本当に準備課の力の見せ所で、もしかしたら既に水面下でいろいろ交渉があって、それいつ発表するかという感じているのかもしれないので、それはわかりませんが、ぜひ時間はどんどん流れていくので、少し遅かったとかそのようなことがないように動いていただきたいと思います。

あと、ボランティアに関してはいろいろお話がありましたけれども、この都市ボランティアと大会ボランティアというのは、目的があってそれに対して集まってくるのでいいのですけれども、今品川のボランティアずっと聞いていると、スポーツなのか何なのかというのが、まだ定まっていない状況の中で、募集するにもなかなか募集しづらい部分があると思うので、しっかり目標目的を決めて、今回はオリンピック・パラリンピックだけではなく、それ以後も続くのですけれども、当面とりあえずこの2年間はオリンピック・パラリンピックのボランティアとして、こういうボランティアがありますというのをどこかで明確に打ち出していかないと、おそらく人も集まらないのではないかなと思いますので、しっかりやっていただきたいと思います。

何か一言あればお願いします。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

委員ご指摘のホスピタリティハウスにつきましては、今年度予算で調査委託等もついているようなこととございまして、さまざまノウハウを使って動いているところでございます。まだ明確なことは言えませんけれども、さまざまところで動いているということだけご理解いただければと思います。

○木村委員長

ほかに何かございますか。

それでは、引き続きまして、前回要望書の関していただいたご意見について、正副で協議した結果をご報告いたします。まず、要望項目の重複についてですが、現時点において、大井ふ頭中央海浜公園の整備を主題とし、過去2度提出しておりますが、東京都より要望項目に関して回答を得られていないことを鑑み、重複した項目で要望書を提出することを問題ないと考えております。また、今回は公園周辺環境の整備についても、要望することとし、例えば前回視察をした大井競馬場前駅のバリアフリー化など、今後想定される課題に対する改善要望を盛り込みたいと考えております。あわせて、簡単ではございますが、前回の委員会が出た意見を、項目別にまとめさせていただき、委員の皆様にも事前にお配りをいたしました。

また、前回委員会終了後に前年度の委員会にて提出をした要望書をお配りしております。本日はそれらを踏まえて、この場で改めてご意見を頂戴したいと考えております。それでは、ご意見等につきまして、ご発言を願います。

○いながわ委員

すみません。これ2番の大井ふ頭中央海浜公園の整備等関係なのですけれども、大井ふ頭中央海浜公園の区への移管というのは、これはもうあれなのですが、ごめんなさい。少し外れてしまうかもしれないのですが、西側にある公園は、あそこは大井ふ頭中央海浜公園ではなかったのでしょうか。一帯でしたか。なぎさ公園、なぎさの森。全部ですか。

〔「名前是一緒」と呼ぶ者あり〕

○いながわ委員

では、結構です。

○木村委員長

何かほかにもございますか。

○たけうち委員

この前回の中には入ってはいないのですけれども、あえて言うならば3番のその他になるかと思うのですが、この間の定例会等でも、我が会派のつる委員がお話をしたりしたのもありますけれども、いわゆるオリンピック・パラリンピック、平和の祭典ということで、そういう趣旨を、もちろん品川区でできる、例えばこの間つる委員の話でカンナを植えるとか、その辺は品川区のサイドでできるかもしれないのですが、全体として平和の祭典というところを何か位置づけるような取り組み等を、ぜひ東京都でも考えていただきたいと思います。

特にオリンピックの期間中に8月6日の広島原爆投下の日だとか8月9日の長崎原爆投下の日が、これが閉会式になるとかかっていますので、当然何か東京都でも考えると思うのですが、しっかりその辺のところも、品川区でやることと東京都全体でオリンピック・パラリンピックの中でやることがあると思いますので、平和の祭典の意義にふさわしい取り組みもぜひ入れてもらいたいということ、その他の中に入れてもらえれば、よろしく願います。

○木村委員長

ほかにございますか。

○伊藤委員

意見なのですけれども、競技場関係とそれから大井ふ頭整備等関係で、LGBTなどという表現の中で、施設整備という表現になっているのです。何を求めんとされているのかなど。あまり漠然とした感じがするのです。まさか、L専用席とかG専用席とかつくらないと思うのですよ。だから、誰でもトイレという表現になっているわけであって、そうすると、何というふうかそれと統合できるのではないかなという気がするわけです。具体的に例えばこれをもらった相手先が、ではどういうふうなLGBTに配慮したらいいのかという想像をするときに、これだとわからないイメージだと私は思うのです。

別にLGBTを否定しているわけではないのだけれども、ただこの表現だと、相手方がわかりにくいと思うので、例えば誰でもトイレの複数設置にその内容を込めていくとか、もう少し文言を整理したらいいのではないのでしょうかという提案です。最終的には、正副に一任いたします。よろしく願いいたします。

○石田（秀）委員

私は先ほど言ったので、ここにもし書いていただければ、外国人ボランティアの宿泊施設の設置というの、入れていただければと思います。

○木村委員長

ほかにございますか。

○中塚委員

LGBTの施設整備についてですが、ずばり言うと、トイレですよね。東京都も男女兼用トイレなど一定方向が出ておりますけれども、まだその後の具体化という意味では見えてこないところもありますので、このLGBTいわゆるセクシャルマイノリティに配慮したトイレなどの施設整備などとしてももちろんトイレ限定ではないでしょうから、トイレなどの施設整備という感じにすると趣旨が伝わるのかなと思います。

○木村委員長

ほかにございますか。

○いながわ委員

すみません。公園の整備関係で追加というか、当然当たり前のように東京都の港湾局なのか公園関係なのか。やると思うのですけれども、感染症対策で、木々が鬱蒼としているので、それが好きという人もいるのかもしれないですが、非常にあそこ、やはり蚊ですとか、もちろんこの間話になったヒアリとか、アルゼンチンアリとかさまざまなそういった虫もいるので、そこはなるべく鬱蒼としているとそういうものがやすくなるのは当然のことであって、感染症対策をしっかりやっていただきたいという表現をお願いしたいと思います。

○木村委員長

ほかにはないですか。

ありがとうございました。ただいまいただきましたご意見につきまして、一旦正副で整理させていただきます。

また、現在調整中ですが、次回東京都オリンピック・パラリンピック準備局にて意見交換などを実施する予定でございまして、その後に委員の皆様から改めてご意見をうかがいたいと考えておりますので、

どうぞよろしくお願いをいたします。

以上で、特定事件調査を終了いたします。

3 その他

(1) 議会閉会中継続審査調査事項

(2) その他

○木村委員長

次に、予定表3のその他を先に議題に供します。

まず(1)の議会閉会中継続審査調査事項についてでございます。本件につきましては、お手元の申出書のとおりでよろしいでしょうか。

[「はい」と呼ぶ者あり]

○木村委員長

では、この案のとおり申し出いたします。

次に(2)のその他ですが、何かございますか。

○小川オリンピック・パラリンピック準備課長

私から3点情報提供がございます。1点目は資料をご覧ください。区役所庁舎壁面3カ所に大会エンブレムを掲示いたします。資料のとおり本庁舎3階入り口、議会棟3階入り口、防災センター3階入り口に大会エンブレムを掲示いたします。都内では都庁舎以外では初の実施となります。掲示予定は10月初旬でございます。

2点目は、ブラインドサッカーの国内大会東日本リーグが11月12月に品川中央公園において開催をされます。区内での国内大会は今回で3回目となります。委員の皆様にはご案内をおつけいたしましたので、お時間が合えばお越しいただければと思います。当日は4試合行われる予定でございます。ご案内の次のチラシは、現在まだ校正中のもので恐縮ではございますが、このような形でPRをしてまいりたいと思います。また、広報しながわは11月1日号に掲載予定でございます。

3点目は次のチラシでございます。同じくブラインドサッカーの国際大会についてです。来年3月21日から25日において天王洲公園のAB面において行われます。詳細については、現在調整中でございますが、会場と日程のみ、お手元のチラシのとおり日本ブラインドサッカー協会と品川区はプレスリリースをいたしましたので委員会においてご報告をいたします。

○池田スポーツ推進課長

私からは資料はございませんけれども、障害者スポーツの推進の1つといたしまして、区内大井ふ頭中央海浜公園で開催いたします第14回日本聴覚障害者陸上競技選手権大会のご案内をさせていただきます。日時につきましては、9月30日です。時間が午前9時半から午後4時までということでございまして、会場は大井ふ頭中央海浜公園陸上競技場になります。こちらで、日本聴覚障害者陸上競技選手権大会が開催されます。

もし、お時間等がございましたら、ご観覧いただければと思います。よろしくお願いをいたします。

○木村委員長

本件について、何かございますか。

ないようですので、以上でその他を終了いたします。

2 視察

○木村委員長

それでは、次に予定表2の視察を議題に供します。本日は調査事項であるオリンピック・パラリンピックの推進に関することに関連して、パナソニックセンター東京の視察に参ります。

それでは、視察場所等について、ご案内いたします。パナソニックセンター東京は、パナソニックが東京2020に向けたムーブメントの醸成を図る主要な拠点と位置づけており、オリンピック憲章にあるスポーツ・文化・教育などをテーマにさまざまなアクティビティを行っております。その中で、本日は2020年に向けたパナソニックのおもてなしイノベーションをテーマとして、Wonder Japan Solutionsにおいて、訪日外国人、障害者および高齢者に関して、東京大会が行われる2020年、またその先に直面するであろう課題に対して、多言語翻訳などテクノロジーによる解決手段を展示していることから、本日の特定事件調査である気運醸成におけるにぎわいづくり、外国人のおもてなしはもとより、オリンピック・パラリンピック全般に係る事項を今後議論・研究するに当たり、先端技術の活用といった視点も重要であり、参考になると考えまして、視察を行うものであります。

あわせて、スポーツ・文化・教育をテーマにした体験展示についても視察をするとともにパナソニックのご担当者の皆さんと意見交換も実施いたします。

それでは、これから休憩を挟みまして視察に参りたいと思いますので、委員および視察に同行される理事者は、12時20分に第3庁舎前のマイクロバスにお集まりください。放送にて、ご案内いたします。また、事前にお配りをしている視察先の予定等についてをお持ちいただくよう、よろしく願いをいたします。

議会の運営上、暫時休憩いたします。お疲れ様でした。

○午前11時23分休憩

[視察場所：パナソニックセンター東京（江東区有明3-5-1）]

○午後0時20分再開

[車中にて再開後、閉会を宣する]

○午後3時30分閉会